



MMA Weekly Report

日経平均株価

By Raymond A Merriman

投資日報出版(株)

コピー 対外配布 厳禁

No. 401 Jul. 12 2004

1. 回顧

先週の日経平均は前週比297ポイント安の11,424で引けた。週の高値は月曜日の11,648、安値は水曜日の11,251であった。先週はギャップダウンの週であり、引け値は週間下値支持線を下回ったので弱気であり、前週の弱気トリガーにフォローした。これは通常弱気の連鎖である。また引け値は7週間ぶりに週間トレンドインディケーターポイントを下回ったのでニュートラルに格下げされる。

2. サイクルズ

今週は新PCの8週目であり、おそらく新48週サイクルの8週目でもあろう。長期18.5ヶ月サイクルの位相は未だ確認されない。しかしこの長期サイクルは既にトップアウトした可能性が極めて高く、現在相場は18.5ヶ月サイクルのボトムに向けて下降中とみられる。このボトムの時間帯は04年7月から05年2月の期間であろう。先週のレポートで次の通り述べた“私の見方では相場は現在ハーフPC(7~11週)のボトムに向けて下落中である。しかし私は現行PCがスタートしたときの安値(5月17日の10,490)を下回るとは思わない。しかし下げは上げ幅の45~85%に達する可能性がある”。結果は予想通りであった。もしこの状態が変わらなければ、今後3週間以内にハーフPCがボトムをつけるだろう。一旦ハーフPCがボトムをつければ、第2ハーフPCの天井に向けて反騰するだろう。その時点で48週サイクル及び18.5ヶ月サイクルの位相が明確になるだろう。もしこれらの長期サイクルが既にトップアウトしているとするれば、第2ハーフPCの天井に向けての反騰は7月1日につけた第1ハーフPCの天井、11,988には達しないだろう。相場は現在形成中の安値を下回ると思う。なぜならPCのボトム終了までに約2ヶ月を要するからだ。しかし48週サイクル及び18.5ヶ月サイクルが依然として強気であれば、第2ハーフPCにおける反騰では11,988のサイクルの新高値を上回る可能性もある。しかしこの場合は相場はその後到来するPC及び長期サイクルのボトムに向けて急落するだろう。私の見方ではこれらの長期サイクルは既にトップアウトしており、第2ハーフPCの天井に向けての反騰では新高値をつけないと思う。

3. ジオコスミックス

現行PCにおける第1ハーフPCの天井は7月1日に出現した。これは金星が順行に転じた6月30日の1日後であった。先週水曜日(7月6日)の安値は11,251であったが、これは太陽が土星に対しオポジションになった日である。この天体位相がハーフPCのボトムを維持したか否かは未だ分からない。この点に関して先週次の通り述べた“これはレベル3タイプの位相にすぎない(最も弱い位相)。次の重要変化日は7月20日である”。7月20日の変化日はオーブを入れると7月15~25日である。従ってトレーダーはその時間帯でハーフPCのボトムが出現する可能性に注意すべきである。もしその代わりにこの時間帯に向けて相場が反騰すれば、ハーフPCのボトムは先週の太陽/土星の位相時にすでに出現したことを意味する。この場合は7月20日の前後3営業日はショートするチャンスかもしれない。しかし私の見方ではこれは安値と合致すると思う。

4. 目標値及びパターン

ハーフPCのボトムの目標値は依然として10,715~11,314である。現在このレンジに入っている。実際先週は11,644~11,693の間でギャップダウンがあった。引け値がこのギャップを埋めるまでは上値にはプレッシャーがあり、相場を押し下げる力が働いている。先週次の通り述べた“ハーフPCのボトムが形成されるので25日移動平均以下までの下落が予想される”。結果は予想通りであった。さて今度はその逆もまた真なりである。即ちハーフPCのボトムは引け値がこの25日移動平均を上回るまでは確認できない。先週金曜日の引け値時点でこの移動平均は11,587であった。24週移動平均は11,360であった。先週次の通り述べた“引け値がこれを下回れば、48週サイクル及び18.5ヶ月サイクルもトップアウトしたことを意味する。しかし私はこれらの長期サイクルが天井つけたことを断言するにはさらに時間を要すると思う”。

相場は一時下回ったが引け値では24週移動平均を下回らなかった。15日スローストキャスティクスは先週急落した。今週はK=21.38%でスタートし、D=34.72%を大幅に下回った。8週スローストキャスティクスは依然として上方を指向しているが、下降に転じ始めた。Kは現在70.55%であり、D=66.30%である。もしKが大幅にDを下回れば長期サイクルが天井をつけたことが確認されるだろう。

5. テクニカル下値支持線および上値抵抗線

週間下値支持線は11,321~11,341、11,155~11,272、10,785~10,956及び10,490。週の引け値が11,228を下回れば弱気。週の途中で下回っても週の引け値が上回れば強気トリガー。週間上値抵抗線は11,487~11,507及び11,576~11,659。週の引け値が11,633を上回れば強気。週の途中で上回っても週の引け値が下回れば弱気トリガー。週間トレンドインディケーターポイントは現在11,638。今週の引け値がこれを下回ればニュートラルに格下げされる。11,563~11,626の間に形成されていた強気クロスオーバーゾーンは先週崩壊した。今回新弱気クロスオーバーゾーンが11,576~11,614の間に形成された。テクニカル面で見れば相場は引け値がクロスオーバーゾーンを上回るまでは弱気である。

* お知らせ

メリマン氏の予定が変わり今回レポートが発行されましたのでお届けいたします。しかし来週は休暇中のため、お休みさせていただきます。

日経平均株価（日足） & 15日スローストキャスティクス

